

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式 論述式・記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

I・IIがアジア史中心、III・IVが欧米史中心という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

初めてグラフや表を利用した問題が出題された (I)。

小論述問題は、昨年度は9問あったが、今年度は7問あった。

その他トピックス

ラシード=アッディーン(ラシード)の著作『集史』が書かれた言語を問う II(6)は、直前講習京大本番プレテストでズバリの中!

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	中華民国初期における中国の工業化とその影響	中華民国初期における中国の工業化の進展について、背景・内容や政治・社会に与えた影響を説明する 300 字論述。グラフと表の読み取りが必要な問題が京大で初めて出題された。「その後」の変化について、どこまで書くか迷っただろう。	難
II	A 記述 論述	西アジアにおける軍事力の変化	西アジアの軍事力が、騎馬遊牧民主体から変化していったことをテーマに、16 世紀までのイスラーム史を中心に問う問題。基本的に京大らしいスタンダードな問題だが、(5)(イ)の小論述問題は答えづらかっただろう。	標準
	B 記述	中国の大運河	中国の大運河について、建設とその役割をテーマに、清代までの中国史を中心に問う問題。大運河に関する(18)は、山陽瀆を建設した皇帝が楊堅であることを読み取った上で、587 年に建設されたという問題文から、南朝の陳を攻略する直近の時期と考える問題であり、(19)は 2014 年本試に「黄河と淮河を結ぶ運河」として通済渠を問う出題があったとはいえ、両問ともに難問。	標準
III	論述	戦間期におけるソ連・アメリカ・ドイツの経済運営、政治的自由や人権	1928 年以降のソ連、1933 年以降のアメリカ・ドイツについて、経済運営および国民の政治的自由や人権に着目してその相違を説明する 300 字論述。1 文目に書かれている、政府・公権力の介入という共通点を踏まえた上で、いずれか 1 カ国に偏らない、3 カ国の相違が分かる、バランスよい記述が必要。	やや難
IV	A 記述 論述	古代ギリシア・ローマの歴史叙述	ヘロドトスからタキトゥスまでの歴史叙述の手法をテーマとした問題。ハヴァフィールドの講演抜粋から読み取れるイギリス人エリート層にとってのローマ帝国の意義を説明する(8)は、リード文のタキトゥスの帝国評価と比較する必要もあり、難しい。また、文化史からの出題が多く、文化史対策が不十分だった受験生にとっては辛い問題だっただろう。	やや難
	B 記述 論述	アフリカ分割と第二次世界大戦後のアフリカ独立	アフリカ分割について、その前提となったアフリカ探検、アフリカ分割の進展や先住民の対応を中心に、第二次世界大戦後のアフリカ独立までを扱った問題。3 問ある小論述できっちり得点できるかが重要。なお、(18)のスペイン内戦に対してイギリス・フランスが不干渉政策をとった理由を問う小論述問題は、1994 年に同じ問題が出題されていた。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

300字論述問題は、近年、テーマ性が高い問題が増加しており、問題の要求を正しく捉えて的確に答える必要がある。論述問題の出来が世界史の得点を左右するだけに、普段から時間軸（時期）・空間軸（地域）を意識した学習を心がけよう。例えば、「時間軸」については歴史事象の因果関係の理解に力点をおきながら、「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めること、「空間軸」については歴史地図を活用した学習を心がけることなどが重要であり、これは記述問題対策としても有効である。記述問題については細かい問題が見られることもあるが、全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので、教科書の内容を古代から現代まで「穴」のない学習を心掛けるとよい。また、中国史やイスラーム史、古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので、過去問の研究を進めることは、有効な学習対策となるだろう。